

◆農薬を使用する際は、次のことを守って正しく使いましょう。◆

1. 農薬ラベルをよく読みましょう

ラベルには、農薬使用基準のほか、使用上の注意事項や環境への影響等必要な情報が表示されていますので、使用前に必ず読みましょう。



2. 農薬の使用基準を守りましょう

農薬の適用内容を確認し、散布できる作物や使用時期、使用方法、使用量または希釈倍率・散布液量、総使用回数等をよく守り、安全・安心な農作物の生産に努めましょう。

3. 農薬は鍵のかかる保管庫で保管しましょう

農薬は専用の保管場所を設け、必ず鍵をかけて保管しましょう。また、除草剤は他の農薬と区別するなどして管理を徹底します。

4. 農薬の調整・散布は、防護具を身につけましょう

防護具（マスクやゴム手袋、めがね、防除衣など）は、いつも使う農薬だから大丈夫、着用が面倒だからなどと考えず、散布方法にふさわしいものを選び、使用者の安全のために必ず着用しましょう。

5. 農薬の散布後について

使用器具は、タンクやホースなどに農薬が残らないようにしっかりと洗浄し、日頃の管理を徹底します。作業終了後は、必ず顔や手足、皮膚の露出した部分などを石鹸でよく洗い、十分うがいをしましょう。

農薬希釈早見表

薬量 (g,ml)	希 積				水 量
	4 ℓ	10 ℓ	20 ℓ	100 ℓ	
希 釈 倍 率	50倍	80g (ml)	200g (ml)	400g (ml)	2,000g (ml)
	100倍	40g (ml)	100g (ml)	200g (ml)	1,000g (ml)
	250倍	16g (ml)	40g (ml)	80g (ml)	400g (ml)
	500倍	8g (ml)	20g (ml)	40g (ml)	200g (ml)
	1,000倍	4g (ml)	10g (ml)	20g (ml)	100g (ml)
	3,000倍	1.3g (ml)	3.3g (ml)	6.7g (ml)	33.3g (ml)

$$1 \text{ 回に散布する量 (ml)} \div \text{希釈倍率 (倍)} = \text{溶かす薬剤の量 (gまたはml)}$$

農薬の剤型及び 使用方法

2月の農作業

農薬の剤型について

農薬は、使いやすく均一に散布できて防除効果を十分に発揮させるため、有効成分に増量剤や補助剤を加えたり、溶剤を混ぜたりしてさまざまな形状の商品に仕上げられています。これを（農薬）製剤といい、粉剤、粒剤といった製剤の形態を「剤型」と言います。

農薬の主な剤型

剤型	特徴
粉剤	農薬原体を粘土などの鉱物質微粉で希釈し、必要に応じて分解防止剤などを添加して製剤化したもので、そのまま使用します。
粒剤	細粒となるように製剤化したもので、そのまま使用します。
水和剤	水和性を有し、水に懸濁させて用いる粉末状の製剤です。水で希釈して用います。
ゾル・フロアブル	水和剤に分類される製剤ですが、これらは微粉化した農薬原体及び増量剤に界面活性剤を加え、水で懸濁させた液状の製剤です。
乳剤	農薬原体を有機溶媒に溶解させ、乳化剤などを加えた透明な可乳化油状液体で、水に乳濁させて用います。
EW剤	乳剤に分類される製剤です。本剤は有機溶剤の大部分を水に変えたもので、粘りような乳濁液体製剤です。
液剤	水溶性液体の製剤で、水に希釈、溶解して用います。
水溶剤	水溶性の粉状、粒状などの固体の製剤で、水に溶解して用います。
くん煙剤	発熱剤、助燃剤を含んだ製剤で、加熱により有効成分を空中に浮遊させて用います。

農薬の使用方法について

登録作物の適用病害虫に対して使用方法について記載されています。表の外に記載されることもあるため、使用時に確認する必要があります。

農薬の主な使用方法

使用方法	説明
散布	粉剤や液剤の希釈液を散布器具を使って作物の茎葉に吹きつける方法です。
土壌混和	粉剤や粒剤を土壌全面や作条、植穴に施用して、表土と混和する方法です。主に、播種や定植の前に行います。
土面施用	粉剤や粒剤を土壌表面に散布する方法です。播種、定植後や生育期間中に行います。
かん注	薬剤の希釈液を土壌表面から注入する方法です。主として土壌病害の防除に行います。
粉衣	種子や種いもを粉剤や水和剤で粉衣する方法です。
浸漬	種子や苗、種いもを薬剤の希釈液に漬ける方法です。
くん煙	くん煙剤をハウス内で加熱して有効成分を気化し、くまなく拡散させる方法です。

裏面は農薬使用の注意点を掲載しています。

農作業のページは取りはずして別に保存し活用してください。

No.322 平成30年2月14日発行